

資料1

日英言語文化学会(AJELC)第46回例会
2014年8月18日 明治大学駿河台校舎

楽しさの要因をふまえた 望ましい英語授業の枠組

鈴木 政浩（西武文理大学講師）

本日用意した資料

資料1：パワーポイントによるハンドアウト（本資料）（A4版）
資料2：「英語の授業に関するアンケート調査」質問紙（A3版）
資料3：楽しさの要因をふまえた望ましい英語授業の枠組（A3版）

用語の定義

※ 他教科では類した研究が見当たらないため、本発表では英語の授業に特化する
※ 特にことわりのない限り、「授業」は英語の授業を指す。
※ 統計手法による結果は確率による推定

因子分析 複数の質問項目から、共通性の高いものをグループに分ける統計手法。分析の結果分けられたグループを因子、因子に名前を付けたものを要因と呼ぶ。

楽しさの要因 授業における楽しさに関する質問紙調査の結果を因子分析にかけ、抽出した因子に名前を付けたもの(中高大学生対象)。

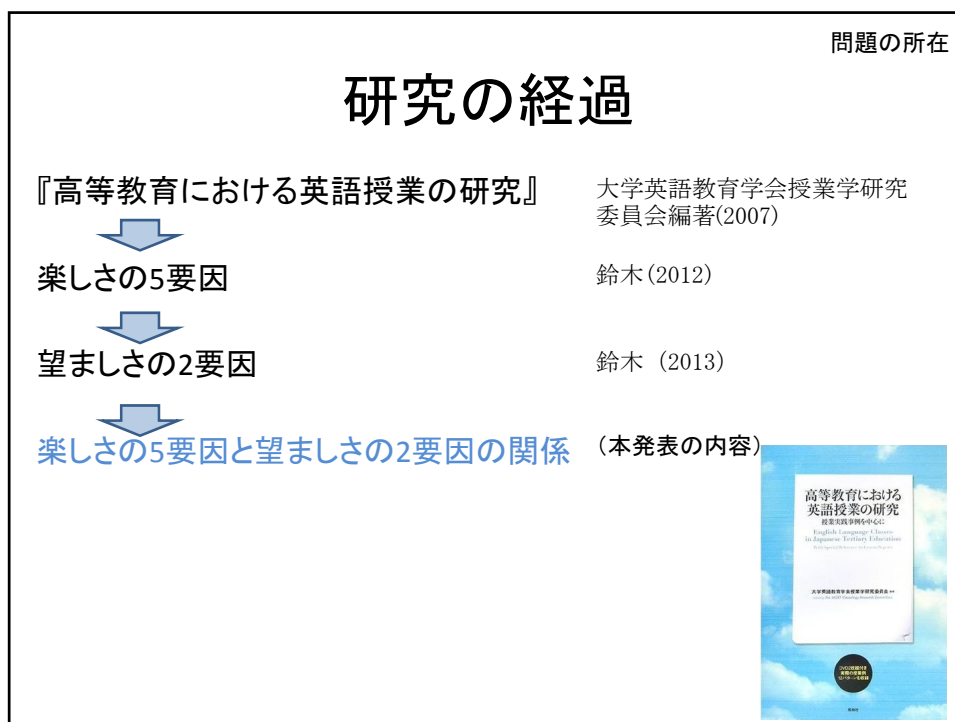
望ましさを要因 授業における望ましい授業に関する質問紙調査の結果を因子分析にかけ、抽出した因子に名前を付けたもの(中高大学生対象)。

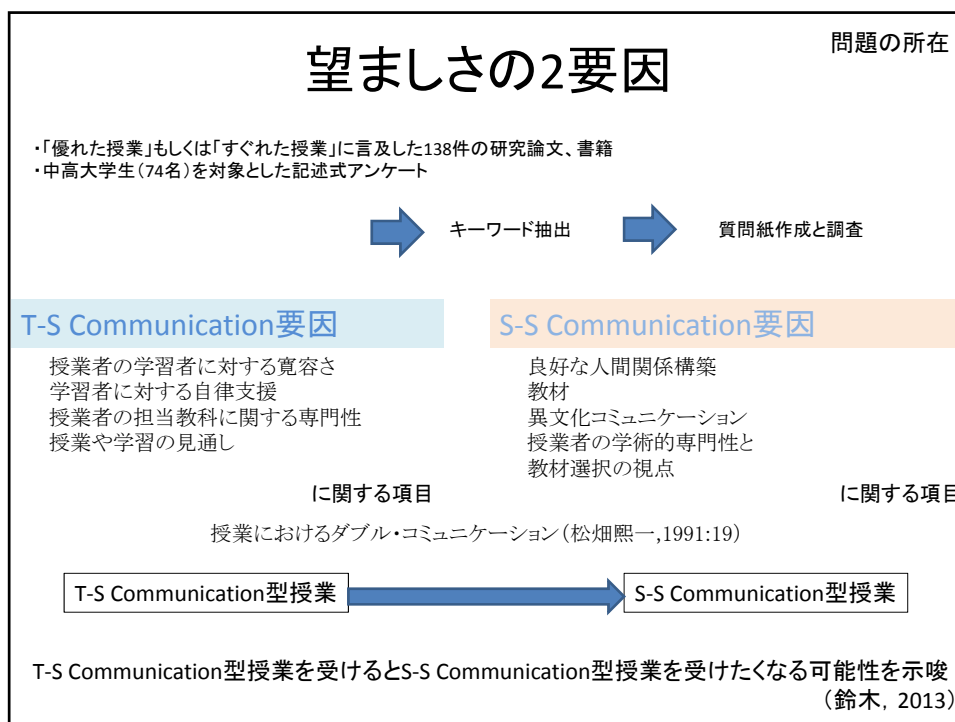
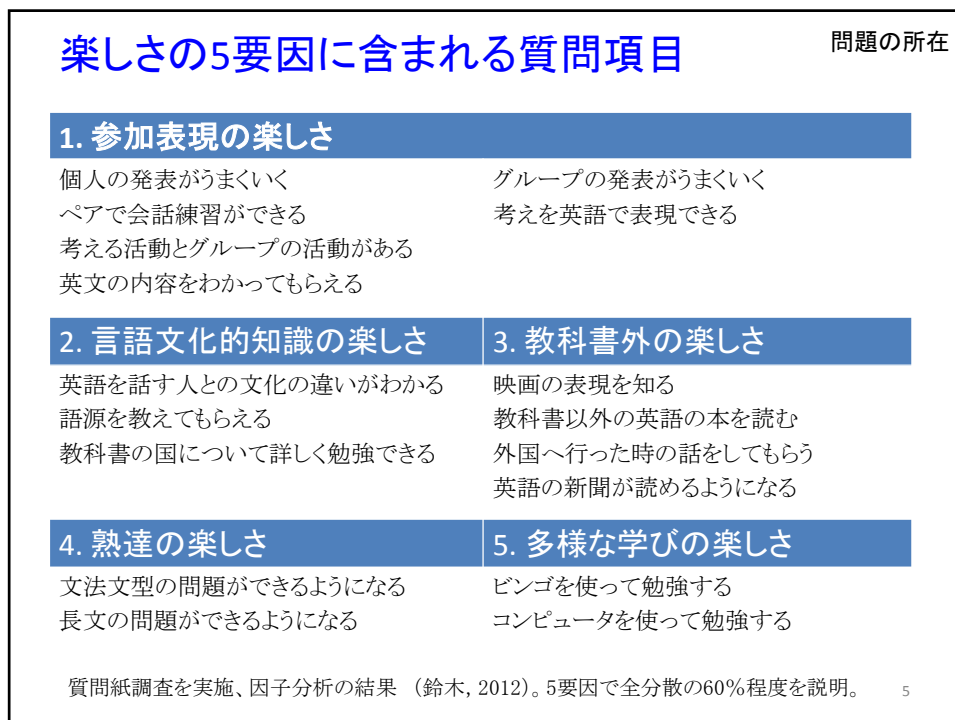
共分散構造分析 要因相互、要因と質問項目の関係を推測する統計手法。

因子分析

共分散構造分析

問題の所在	
研究の動機	<p>楽しさの要因と望ましさの要因の関係に異なる見解がある。</p> <p>森住(1980)：すぐれた英語授業の要因と楽しさは重なる部分が多い 斎藤(2002)：楽しさが学力形成につながっていない</p>
本研究の立脚点	<p>楽しさの要因と望ましさの要因の関係を分析することにより、楽しさを活かした望ましい授業の枠組を考案できる。</p>
研究の目的	<p>楽しさの要因と望ましさの要因の関係を分析すること。</p>





問題の所在

望ましさの2要因と楽しさの5要因の 関係を示すモデル(仮説)

T-S Communication型英語授業 → 楽しさの5要因 → S-S Communication型英語授業

授業者の学習者に対する寛容さ
自律支援
授業者の担当教科に関する専
門性と授業や学習の見通し

に関する項目

良好な人間関係構築
教材
異文化間コミュニケーション
授業者の学術的専門性と
教材選択の視点

に関する項目

方法と手続き

方法

1. 楽しさの要因、望ましさの要因に関する質問項目を統合する(学齢・性別等含む66項目からなる6段階のスケール)。(資料2)
2. 因子分析後、仮説として提案したモデルに当てはめてみる(AMOS ver.17)。

対象者

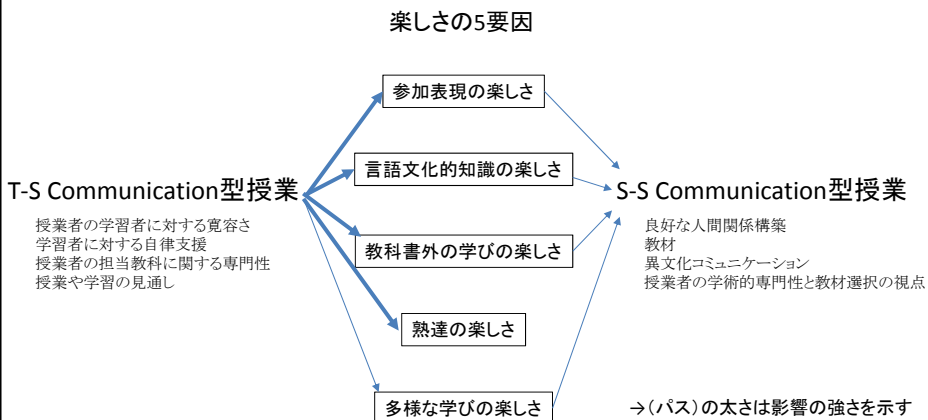
関東近県の中高大学生1357名
(中学生362名、高校生779名、大学生216名)。

調査期間

2012年10月から12月。

結果と考察

① 望ましさの要因と楽しさの要因は別物である可能性が高い



② 学習者の考える授業の現状

T-S Communication型授業を受けると、楽しさの5要因を取り入れた授業を受けたいくなる。しかし、楽しさの5要因を取り上げた授業を受けても、S-S Communication型授業を受けたいくなるとは限らない可能性を示唆。

授業への適用

資料3 楽しさの要因をふまえた望ましさの要因による授業の枠組

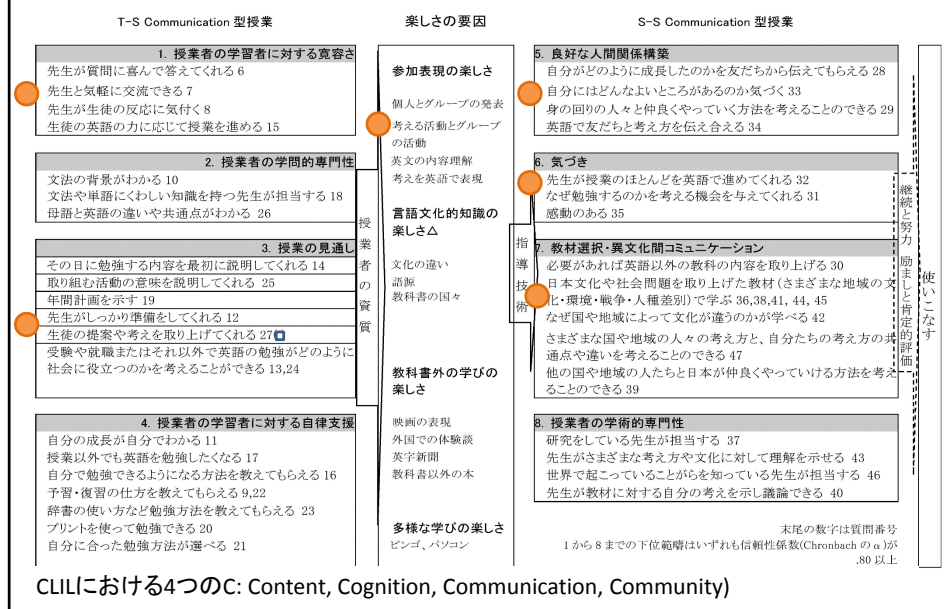
T-S Communication 型授業	楽しさの要因	S-S Communication 型授業
<p>1. 授業者の学習者に対する寛容さ 先生が質問に喜んで答えてくれる 6 先生と気軽に交流できる 7 先生が生徒の反応に気付く 8 生徒の英語の力に応じて授業を進める 15</p>	<p>参加表現の楽しさ 個人とグループの発表 考える活動とグループの活動 英文の内容理解 考えを英語で表現</p> <p>言語文化的知識の楽しさ△ 文化の違い 語源 教科書の国々</p> <p>教科書外の学びの楽しさ 映画の表現 外国での体験談 英字新聞 教科書以外の本</p> <p>多様な学びの楽しさ ピンゴ、パソコン</p>	<p>5. 良好な人間関係構築 自分がどのように成長したのかを友だちから伝えてもらえる 28 自分にはどんなよいところがあるのか気づく 33 身の回りの人々と仲良くやっていく方法を考えることのできる 29 英語で友だちと考え方を伝え合える 34</p>
<p>2. 授業者の学問的専門性 文法の背景がわかる 10 文法や単語に詳しい知識を持つ先生を担当する 18 母語と英語の違いや共通点がわかる 26</p>		<p>6. 気づき 先生が授業のほとんどを英語で進めてくれる 32 なぜ勉強するのかを考える機会を与えてくれる 31 感動のある 35</p>
<p>3. 授業の見通し その日に勉強する内容を最初に説明してくれる 14 取り組み活動の意味を説明してくれる 25 年間計画を示す 19 先生がしつかり準備をしてくれる 12 生徒の提案や考えを取り上げてくれる 27 受験や就職またはそれ以外で英語の勉強がどのように社会に役立つのかを考えることができる 13,24</p>		<p>7. 教材選択・異文化間コミュニケーション 必要があれば英語以外の教科の内容を取り上げる 30 日本文化や社会問題を取り上げた教材(さまざまな地域の文化・環境・戦争・人種差別)で学ぶ 36,38,41, 44, 45 なぜ国や地域によって文化が違うのか学べる 42 さまざまな国や地域の人々の考え方や、自分たちの考え方の共通点や違いを考えることのできる 47 他の国や地域の人たちと日本が仲良くやっていける方法を考えることのできる 39</p>
<p>4. 授業者の学習者に対する自律支援 自分の成長が自分でわかる 11 授業以外でも英語を勉強したくなる 17 自分で勉強できるようになる方法を教えてもらえる 16 予習・復習の仕方を教えてもらえる 9,22 辞書の使い方など勉強方法を教えてもらえる 23 プリントを使って勉強できる 20 自分に合った勉強方法を選べる 21</p>		<p>8. 授業者の学問的専門性 研究をしている先生を担当する 37 先生がさまざまな考え方や文化に対して理解を示せる 43 世界で起こっていることから知っている先生を担当する 46 先生が教材に対する自分の考えを示し議論できる 40</p>

継続と努力
使いこなす

末尾の数字は質問番号
1から8までの下位範囲はいずれも信頼性係数(Chronbachのα)が
.80以上

授業への適用: CLIL(Content and Language Integrated Learning)の場合

資料 3 楽しさの要因をふまえた望ましさの要因による授業の枠組



本研究の限界と今後の課題

- 過去の教授法と本発表の枠組の比較
- 本発表にもとづく授業実践事例構築とその効果検証
(下位項目の組み合わせ、シラバスとポートフォリオの統合化)

参考文献

- 大学英語教育学会授業学研究委員会編著(2007)『高等教育における英語授業の研究－授業実践事例を中心に』東京:松柏社
- 松畑照一(1991)『英語授業学の展開』東京:大修館書店
- 森住衛(1980)「楽しい授業とは何か」『英語教育』29(1), 56-57 大修館書店
- 斎藤栄二(2002)「楽しければそれでいいのか」『語研ジャーナル』(3), 93-96.
- 鈴木政浩(2012)「英語授業における『楽しさ』の要因に関する研究 A Study on Factors of Enjoyment of Learning English in Classroom.」KATE Bulletin, 26, 1-14.
- 鈴木政浩(2013)「望ましい英語授業の2要因の関係－楽しさの影響をふまえた分析－」『言語文化教育研究』第3号 東京言語文化教育研究会